

2025

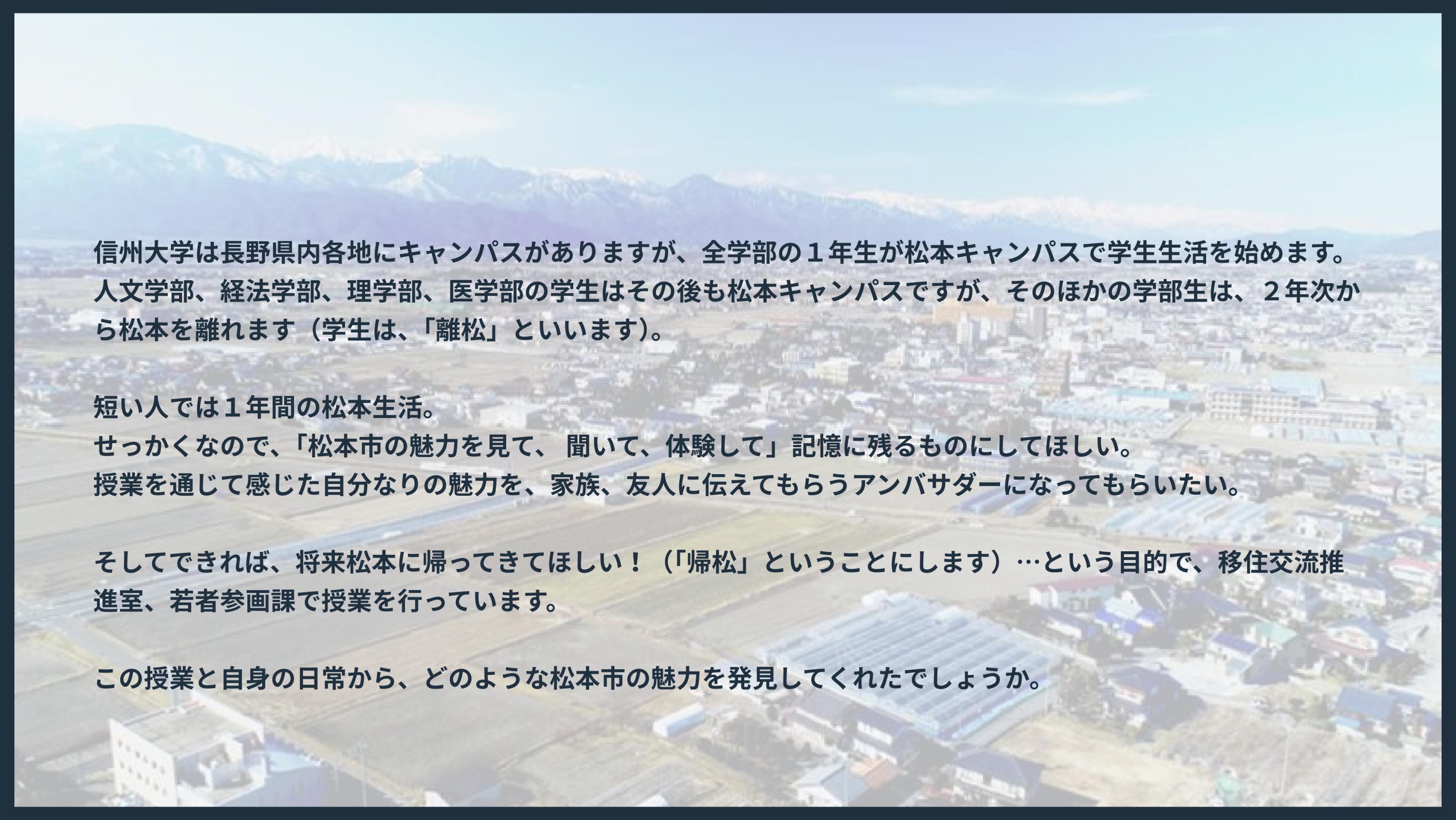
信大寄附講義

松本市の魅力発見ゼミ

—松本のアンバサダーになるう—



自分が気づいた松本の魅力

An aerial photograph of a city, likely Matsumoto, Japan, with a range of mountains in the background under a clear sky. The city is densely packed with buildings, and a large open area, possibly a stadium or sports field, is visible in the foreground.

信州大学は長野県内各地にキャンパスがありますが、全学部の1年生が松本キャンパスで学生生活を始めます。人文学部、経法学部、理学部、医学部の学生はその後も松本キャンパスですが、そのほかの学部生は、2年次から松本を離れます（学生は、「離松」といいます）。

短い人では1年間の松本生活。

せっかくなので、「松本市の魅力を見て、聞いて、体験して」記憶に残るものにしてほしい。授業を通じて感じた自分なりの魅力を、家族、友人に伝えてもらおうアンバサダーになってもらいたい。

そしてできれば、将来松本に帰ってきてほしい！（「帰松」ということにします）…という目的で、移住交流推進室、若者参画課で授業を行っています。

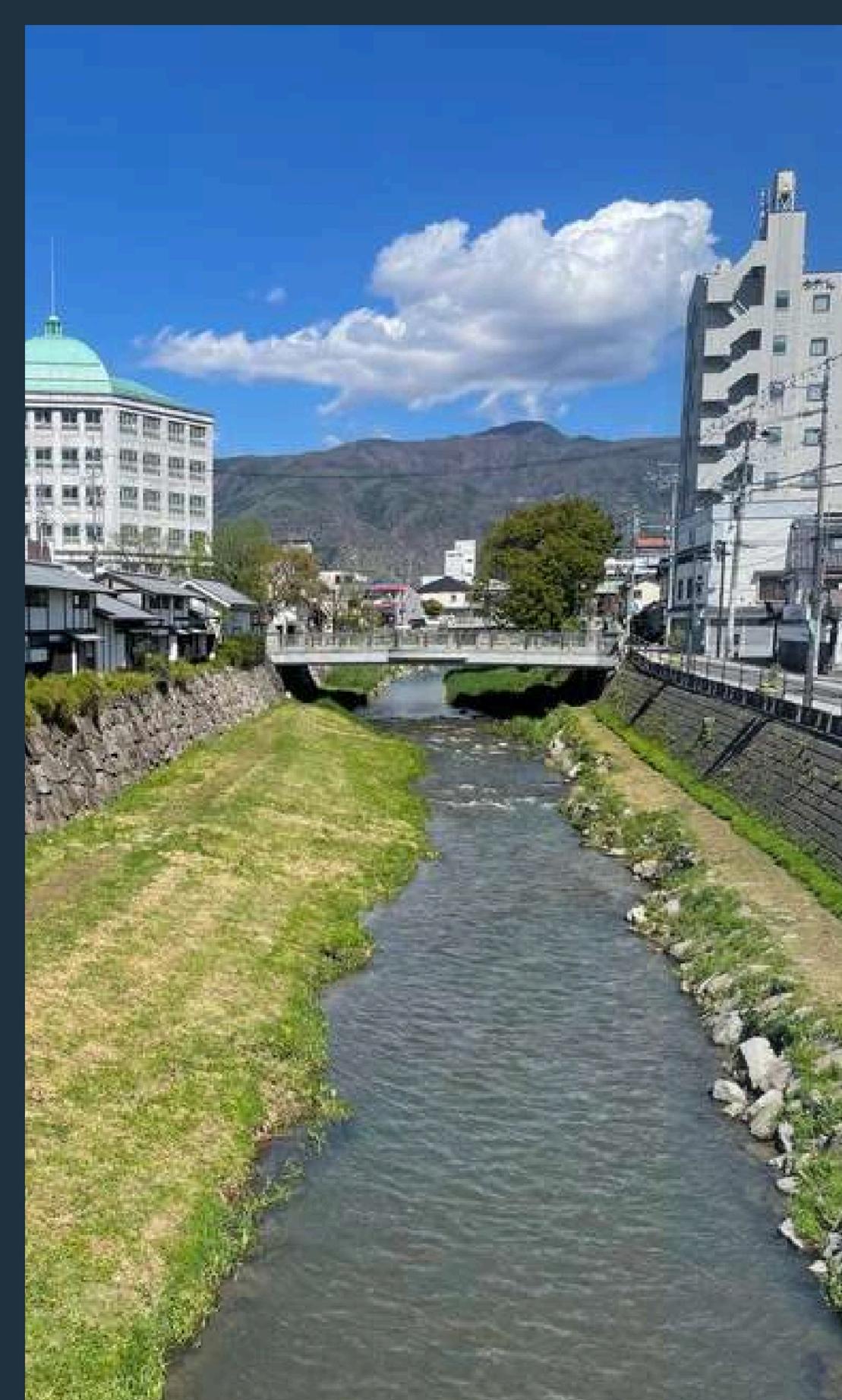
この授業と自身の日常から、どのような松本市の魅力を発見してくれたでしょうか。

教育学部1年（千葉県船橋市出身）

ここまで講義をやってきた中で多くの人が松本市の魅力を「田舎過ぎず都会過ぎない」と述べていた。自分は松本市の魅力を「田舎であり都会である」に訂正したい。自分は関東の都会に住んでいたがここ松本に越してきてから不便さを感じたことは全くない。人や観光客も多く、都会だと言って差し支えないと思う。住んでいく上で最低限施設は揃っていることは多くの人に必須条件だろう。少なくとも、自分の住んでいた千葉県の船橋市と比べてもそこと変わらないくらいには十分に都会であると感じている。

一方で視点を変えてみると松本は十分田舎であると感じている。アルプス公園など歩いて行ける距離の場所でも動物注意の看板が出ており、女鳥羽川に夜行けば蛍が舞っている。これは田舎だと十分言えるだろう。都会は海や川にはごみや油が浮いており、異臭を放っている場合もある。それに比べ市街地にある女鳥羽川や薄川等でさえ泳ぎたくなるほど水が澄んでいて空気も美味しい松本市は田舎の魅力を十分に有しているのではないか。また大都会の名古屋や東京にも電車一本で行けてしまう。逆に美ヶ原や上高地など秘境ともいえる観光地も市内にある。

自分はこの町の欠点としては夏が暑く冬が寒いくらいしか思い浮かばない。それすらも自分は松本市の一つの性格として魅力的に見えてしまう。自分は松本に来てから三ヶ月も経たないが、この町が本当に好きで将来住みたいと思っている。





繊維学部1年（宮城県仙台市出身）

私がお勧めしたい松本の魅力は春の景色です。松本は市内どこからでも常念岳をはじめとする北アルプスを望むことができます。また、晴天に恵まれる日が非常に多く、これらを背景に景色を眺められる場所がたくさん存在します。その中でも私が特にきれいだと思う景色は薄川の見晴し橋からの景色と弘法山古墳の山頂からの景色です。

見晴し橋では沿道にずらっと並ぶ桜と美ヶ原の雪解け水が流れる川、雪をかぶった日本アルプス、澄み渡った青空を一枚のなかに収めることができます。弘法山古墳では標高650mの高さから松本盆地と槍ヶ岳や白馬岳など平地からは見えない山を含む北アルプス全体を望むことができます。木のトンネルを抜けて階段を登った先に開く北アルプスの景色は圧巻です。

高い山に登頂したり、展望台に登ったりしなくても街中で山を背景にした壮観な景色を楽しめるのが、松本ならではの魅力です。

人文学部1年（岐阜県御嵩町出身）

私が思う松本市の魅力はちょうどいい田舎であり、ちょうどいい都会であるという点です。

ちょうどいい田舎というのは、自然に囲まれているということです。外に出れば北アルプスなど美しく壮大な山々を見ることができます。特に、夏前までの山頂に雪が積もっている様子は思わず見とれてしまいます。また、街中に川が流れており、春から夏にかけて女鳥羽川沿いを自転車で駆け下りるのは気持ちがいいです。

ちょうどいい都会というのは、気軽に外出のしやすい環境であるということです。自転車やバスを使って数十分程度で松本城や温泉街、美術館などの場所に訪れることができます。自分の住んでいる場所に観光地がたくさんあるというのはなんだか誇らしい気持ちになります。さらに、松本市には個人店が多くあるのが魅力です。おしゃれなカフェやおいしいごはん屋さんがあり、週末にどのお店に行こうか調べる時間がとても楽しいです。

私のお気に入りのお店は、浅間温泉にある『ガレージカフェ』です。おいしいオムライスだけでなく、ボリューム満点のデザートトーストも食べられます。私は、松本市は家族や友人に自慢したくなるような街であると思います。



医学部1年（茨城県ひたちなか市出身）

私は松本市の「ちょうどいい都会さ」が気に入っています。地元の茨城県ひたちなか市と規模が似ていて、自分に合っていると感じています。それに加えて、松本市は個人店が多く、おしゃれでこだわりを持ったカフェや雑貨店がたくさんあったり、歴史のある建物が街中に残っていたり、歩いているだけでも楽しく飽きません。

山に囲まれ、きれいな川が流れていて自然との距離も近く、都会と田舎の両方の良いところを併せ持ったような街だと思います。私は特に女鳥羽川沿いを歩くのが好きです。

松本に来てから一つ個人的に印象に残っていることがあります。それは、車の運転の親切さです。私の地元では、信号の無い横断歩道で車が止まってくれることはあまりなかったのですが、多くの車が止まってくれるということに驚きました。

松本市は、家族や友人に自信をもって紹介できるような素敵な街だと思っています。



工学部1年（山梨県山中湖村出身）

個人的に松本市の魅力は市民の距離感が近いところだと感じた。例えば信大生と地域の人々の関係性だ。私はアイスホッケー部に所属していて練習に行った時OBがいた。練習だけかと思ったがその後のご飯や翌日のサッカー大会なども一緒にいた。さらにそのOBは1歳上とかでなく10歳上の人などもいた。私は大学を卒業してからこんなにも松本市に残っている人がいるということと学生と大人の距離感の近さに驚いた。

これは信大の魅力だと思う人もいると思うが松本市が良い町だからこそ30を過ぎても松本市に残って住んでいるんだろうし、そもそも信大松本キャンパスも松本市の魅力の一つであると考えます。また、ゼミに来てくれる講師の人もちよくちよく言っているがおすすめのお店などの情報もすぐに何故か入ってくる。そういったところからもお店とお客の関係性や住民同士の関係性が良い事が分かる。

私の地元では同年代の人と一緒にいることが多く、あまり大人と関わる機会がなかった。そんな中このような環境にある松本市に来て、居心地がいいなと感じた。



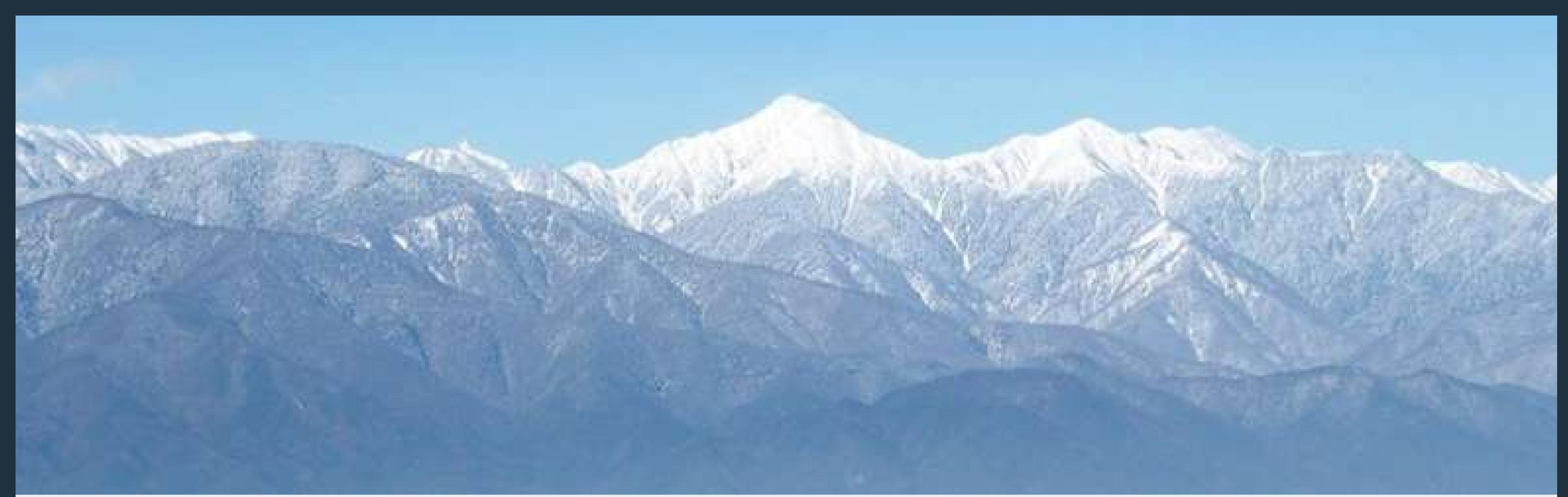
教育学部1年（富山県富山市出身）

私の考える松本市の魅力は、町への深いこだわりと市民の街への愛着にあります。これは町並みや景観で特に際立っていると思います。例えば城下町らしい風情の残る中町通りでは、白い漆喰壁の土蔵造りの建物が軒を連ね、伝統的な美しさを今に伝えています。

一方で駅前や本町通りは近代的な建物と現代的なビルが調和した独自の景観を作り出しています。お店もこだわりの強い個人店がたくさんあり、市街地をより活気のある華やかな地域にしていると思います。また住宅街では一軒一軒の特にお庭が、日本庭園風のものから現代的なものまでお手入れが丁寧に整えられており、そのセンスの良さは松本市の誇りだと思います。これは市民が自分たちの街をより魅力的に大切にしようという思いが町全体に根付いているからこそ松本市の風景は特別なものとなっているのだと思います。

これらのこだわりは街を歩いているとよく感じられ、町内会ごとの手入れの行き届いた小さな花壇や町や道にゴミが落ちていないこと、周りにある雄大な山々も相まって日常生活で街を散歩しているだけで癒される、居心地のよく感じるところが松本市の魅力だと思います。





経法学部1年（大阪府箕面市出身）

松本の良いところはたくさんある。一つは、夏でも雪が残るような高いアルプスの山々がいつでも見ることができることや、街中を流れる女鳥羽川でも夜になるとホタルが飛び交っているのを見ることができるこの自然の豊かさだと思う。

また松本にはチェーン店ではない個人経営の飲食店やおしゃれなカフェなど街歩きが楽しめるお店がたくさんある。城下町の名残から道も整備されていて歩きや自転車でどこでも行けるので旅行で来てもレンタサイクルなどでふらっと街をめぐり気になったお店に入ってみるととても楽しめると思う。

人文学部1年（長野県松本市出身）

私は松本市の魅力の一つとして「愛着が湧く街」であることをあげる。この魅力に気づいたきっかけは、授業を通して松本で活躍される様々な方のお話を聞いたことである。自身の周りにも都会で暮らした後に松本に戻ってくる方や、ささいなきっかけで松本に来たが、これからも住み続けたいと思うほど松本が好きな場所になった、と話す方が多い印象を受ける。

この理由を考えたときに思いついたことが「愛着」である。松本市は住んでいると自然に愛着が湧く街なのではないだろうか。松本には、都会的な利便性を備える市街地の中にも、自然を感じられる川や公園が点在し、個人が営む飲食店や雑貨店が多い。そのため街を歩いているうちに、観光地やチェーン店ではない自分“だけ”のお気に入りの場所が見つけれられる。これが松本独自の特徴の一つであり、街に愛着が湧く理由でもあると考えた。

【出典：三の丸エリアプラットフォーム】

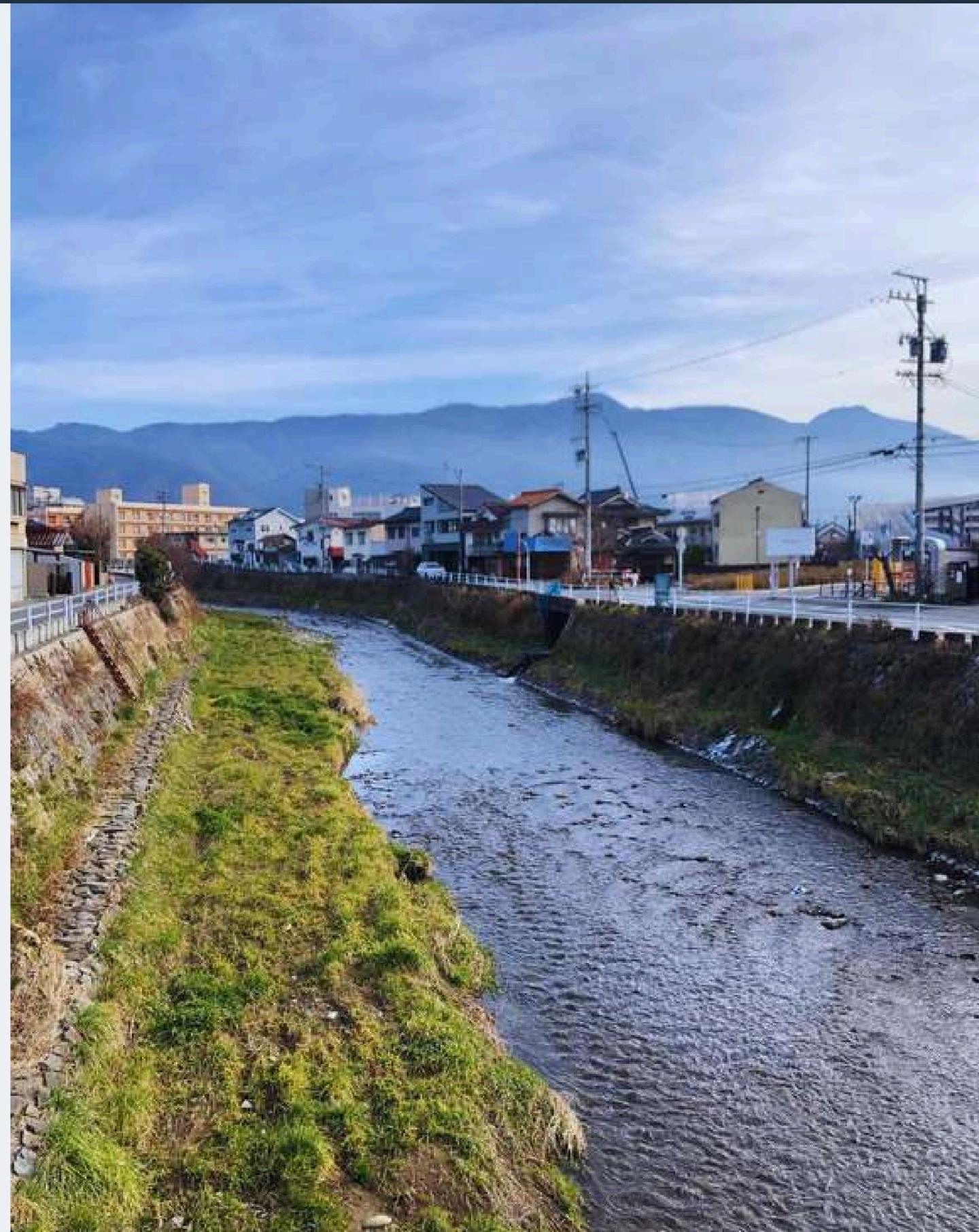


理学部1年（埼玉県ふじみ野市出身）

松本市の魅力は、豊かな自然と人の温かさにあると感じています。私は大学で地球学を学んでおり、キャンパス周辺にそびえる山々や清流は、観察や実習に最適な環境です。松本は地質的にも特徴があり、多様な岩石を身近で観察できる貴重な地域です。

授業では、市内の川から石を採集し、大学に持ち帰って切断・研磨を行い、岩石の特徴を詳しく調べる実習もあります。私は関東から松本に来たので、地方での生活に不安を抱えていましたが実際に暮らしてみると、店員さんやバイト先の仲間、地域の方々の温かさに触れ、今では松本の居心地の良さを実感しています。

松本市はまちづくりにも力を入れており、個人経営の店が多いことで、店の人との会話やつながりが生まれやすく、地域に親しみを感じます。城下町としての落ち着いた雰囲気と、現代の暮らしが自然に調和した美しい街並みも、松本ならではの魅力だと思います。



工学部1年（神奈川県横浜市出身）

私が思う松本市の魅力は街が定型化されてなく人々の営みが同じ規模の町に比べて顕著に感じられることです。

私は横浜から松本に来たのですが私の住んでいた街は栄えて、人もたくさんいて、大都市にしかない店もたくさんあって、なんでもありますが、そこで中心となっているのは「人が沢山いる場所なら儲かる」サービスが多く、それらの大きな店舗やサービスに関する情報の濁流にのみこまれて、ほかの小さかったり、情報量が少ない店などが目立ちにくく、それらを見つけるのが大変でした。

しかし、松本に来て街を散策すると、それらの情報が少ないので自分で面白い物を探しに行く余裕ができました。しかし、情報量が少ないということだけならほかの地方都市も同じことが出来ます。そこで松本市がほかの自治体と差別化できているのは地方都市の中では圧倒的な文化資産の多さだと思います。コンパクトにまとめられた市街の中にある、沢山の美術館と博物館、民芸・工芸店や広くて整備された都市公園がお店を開く場所を考えている人たちに魅力的に映って、松本市の個性的な店の源流となり、ほかの街からも人が集まってくる一因なのではないかと感じました。

よって私はこの街がただ人が集まっているだけではなくて人々が多彩な営みを行っている魅力的な街なのだなと感じました。



経法学部1年（東京都板橋区出身）

私が2か月ほど松本に住んでみて魅力に感じた点は人のやさしさである。例えば毎日学校に通うときに信号は押しボタン式だが信号が黄色信号の時に無理に渡ろうとする車はほとんどなく、また川沿いの道を通るときに信号が無い交差点でもたいていの運転手は歩行者を優先して止まってくれる。今となってはこの光景に慣れてしまいつつあるが、引っ越してきた当時はこのことにとても驚いた記憶がある。

また、自分が引っ越してきたばかりの時に、はんこ屋さんに行ったときに店主がとてもやさしく対応してくれたことを今でも鮮明に覚えている。はんこ屋は一度限りの出会いになってしまうかもしれないが、この記憶があるとはんこを大事にしようと思えてくる。街の魅力を見つけようと思うと店や観光スポットに焦点を当てがちだが、このように優しい人が多いということも魅力の一つなのではないかと感じた。

【出典：三の丸エリアプラットフォーム】



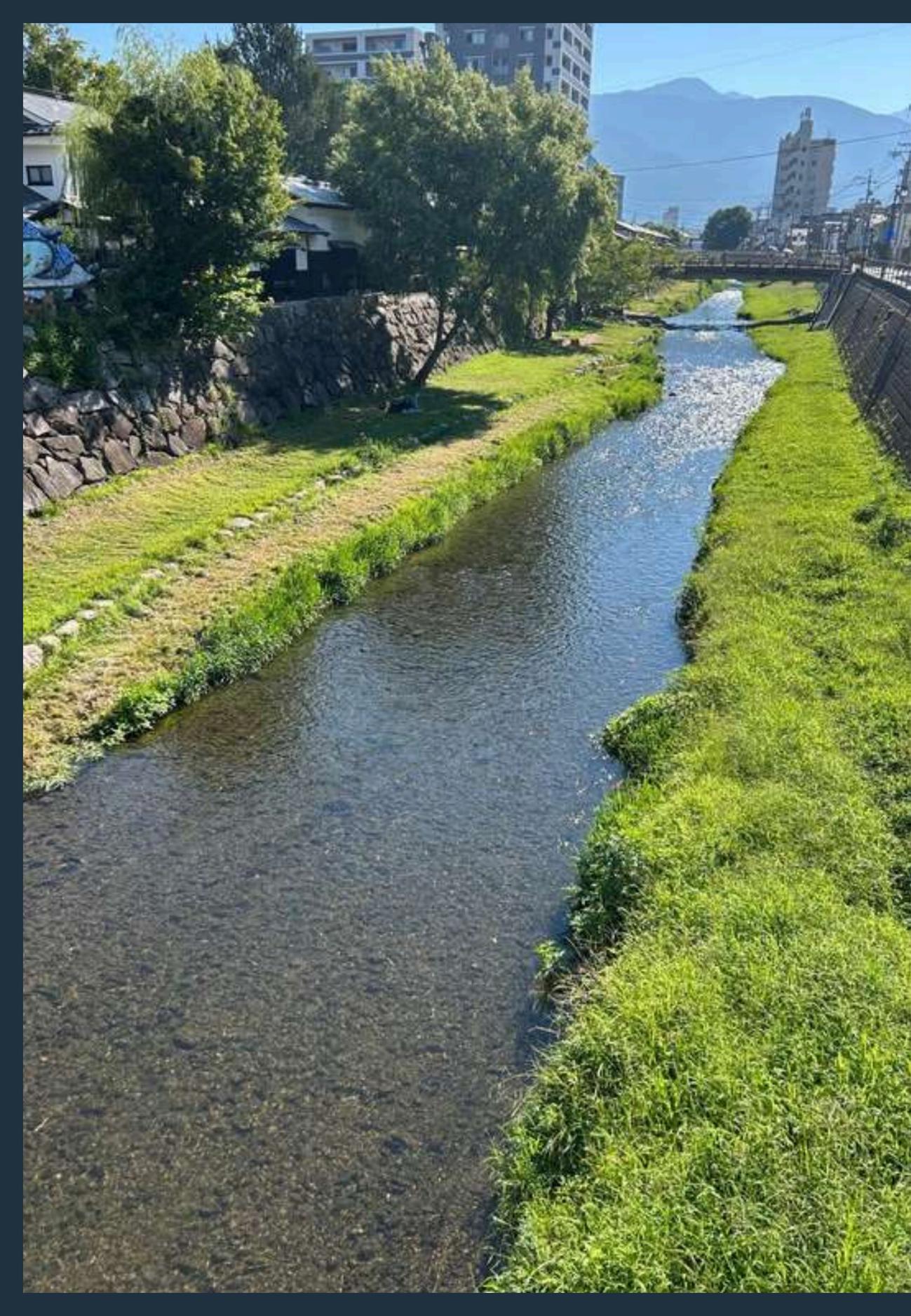
教育学部1年（長野県小谷村出身）

「松本市=ちょうどよい場所」と聞いた時、正直ピンと来ていなかった。田舎から松本に出てきた私は、徒歩圏内にコンビニがあり、自転車があれば大体の場所に行ける生活に十分都会っぽさを感じていたからだ。しかし、多くの方の話を聞いているうちに、皆が口をそろえて言う「ちょうどよい」が次第にわかってきた。

バスや電車など交通の便はしっかりしているし、生活費も都会より安く抑えられる。人とのつながりは強く、温かい。街にはおしゃれで美味しい個人店が並び、地区や町ごとに違った表情がある。街を歩くたびに新たな発見があるのも魅力の一つである。

私は田舎の暮らしも都会の暮らしも両方体験したことがあるが、ここ松本市は都会の息苦しさやせわしなさ、田舎の不便さを緩和し、両方の「良さ」が調和しているように感じる。松本で生活して4年目になった。多くの方の話を聞き、自分の足で歩き、ようやく本当の魅力と住みやすさに気づけた気がする。





医学部1年（岐阜県恵那市出身）

私が思う松本市の魅力は、楽しく散歩ができることです。松本市には個人経営の店が多く、飲食店や雑貨店だけでなく作品の展示会などが開かれていることもあるため、見ていて飽きることはありません！それらのお店は移住してきた人が経営していることもあり、ほかの地域からお客さんが来るような隠れた名店もあるのでそれを探してみるのも楽しいと思います！

また、松本市は様々な川が流れています。その中でも女鳥羽川は市街地に流れており、きちんと整備されていてとてもきれいな川です。女鳥羽川沿いに歩いていけば縄手通りにも行けるし、夏は川沿いを歩くと涼しくてとても気持ちいいです！もし疲れてしまったら、近くの神社に行ってみるのもいいと思います。松本には神社やお寺が多くあり、休憩ついでにお参りしてみると心が落ち着くのでお勧めです！このように松本は散歩を楽しめる街です。

しかし、松本は気温が高く、紫外線が強いので紫外線対策や熱中症対策は万全にしていきましょう！

理学部1年（東京都立川市出身）

春から信州大学の学生となり、松本市で一人暮らしを始めて約4か月たちました。授業での2度の課外活動、松本市に移住してきた人たちの話、そして生活しているうえで感じた魅力について語ろうと思います。

まず結論ですが、市民の方との距離感が魅力であると考えます。そして、市民の方との距離感は自分が今までに感じたことがないほど近いと思います。4月頭にイオンで家具を買い、歩いて家まで向かっているときに、散歩をしている方々に2度声を掛けられ、軽い世間話と応援の言葉をもらいました。初めての出来事に衝撃を受けましたが、市民の方の人柄の良さや、距離の近さを魅力に感じました。出身地の東京では知り合いのご近所さんとの挨拶はあっても、話がそこから始まることはありませんでした。ましてや、見知らぬ人に話しかけられることはほとんどありません。

その点、松本の人はとても暖かく、自然な感じで向かい入れてくれることは大きな魅力だと思いました。



工学部1年（愛知県田原市出身）

私が思う松本市の魅力は、昔ながらの生活の要素が身近に感じられることです。松本城周辺を散策していたとき、生活用水を確保するために井戸の水を汲みに来ている家族を見かけました。そのそばで、地域住民が飲み物を忘れた際に、「井戸で水を飲むから大丈夫」と言っていたのが印象的でした。自販機で飲み物を買うのではなく、井戸を使うという選択がごく自然にあることに驚きました。

こうして住民とまちが水を通じてつながっている様子から、松本には人と暮らしと自然が無理なく共存していることを実感しました。また、昔ながらの景観を残そうとしている個人店も多く、地域の人々が日常生活の中で歴史や文化を大切にしながら暮らしていることが感じられます。こうした環境は、人と人との距離を縮め、地域への愛着やつながりを深めています。松本市では、伝統と現代の生活が調和し、安心して暮らせる温かいまちづくりが進んでいると感じました。



繊維学部1年（神奈川県相模原市出身）

松本に来て一番気に入っていることは「出かけることが楽しい街であること」です。自転車があればどこへでも行けるコンパクトな街でありながら、都会みたいなごちゃごちゃ感がなく、静かに過ごせるところが魅力です。街を歩くと、雰囲気の良い喫茶店や個性豊かなお店がいくつもあり、ちょっとした寄り道やお気に入りの個店を見つけることも楽しさのひとつです。

また、松本は"ほどよく都会"で"ほどよく田舎"でもあるため、人と人とのちょうどいい距離感や、小さな繋がりがみられるところもいいなと感じました。少し出かけるだけで、公園や井戸端で立ち話ができたり、地元の人が気軽に集まれる場所があったりして、暮らしの中であたたかさを感じます。

そうした日常のゆるやかなつながりが、自分にとってはとても心地よく、松本で暮らすことの楽しさにつながっていると思います。





医学部1年（長野県伊那市出身）

私にとって松本は地元以上に好きな街の一つである。私は京都の街並みが好きなのだが、個人的に松本は小京都を感じる街並みで、街歩きによって魅力を発揮すると感じる。例に挙げると、中町通りや縄手通りなどである。中町通りは白と黒が使われた土蔵造りの家が特徴的で、通りを歩くだけで江戸時代にタイムスリップしたかのような気分になれる。立ち並ぶ家には民芸・工芸品を売るお店やスイーツ店、隠れ家的な居酒屋など様々なコンセプトを持ったお店が集まり、一つの芸術品のような存在感がある。

縄手通りは一風変わって、木を基調とした建物が京都っぽさをより一層漂わせている。低層の建物にも風情を感じる。縄手通りは和と洋のお店が存在していて、ハワイのような雰囲気ジェラート屋があると思えば、せんべいを売る日本っぽさを前面に出したお店もある。他にも、松本には個人店でノスタルジックな雰囲気が漂うお店が多く存在しているため、街歩きをする中で自分の中での“好き”を見つけてほしい。

経法学部1年（愛知県稲沢市出身）

ぼんやり遠くに見えていたはずの山々がはっきり大きく、近くに見える。たとえ実際はまだ遠くにあるのだとしても、自分が自然に近い暮らしになったということを実感させられる。私は松本城が好きだ。そこには歴史が深く眠っている。堀が工事中でまだ浮きがあることは惜しまれるが、山や水、城を一望して一人気ままに時間を潰すことが出来るのも楽しい。ただ、今は暑い。気ままに時間を潰そうとすれば暑さに妨害されてしまう。そういう時はもっとずっと山に近づく。奈川で涼しい風に吹かれながら視界いっぱい緑を浴びる。私の地元からならきっと一つの旅行になっていたことが、日帰りで出来てしまう。

そして、家に帰るときには帰路の坂から見える鮮明な山々と暮れた空から感じる夕方の空気感に一日の終わりを実感する。何か月も経って何の特別感もなくなってきた、ただの道から景色を見るのが、実は一番好きな瞬間だ。「空気が美味しい」なんて山を目の前にしても家を近くにしても等しく私にはわからない。けれど自転車を漕ぎながら坂を上るときに感じる乾いた空気に通る風と、鮮やかな緑に色付く山々を目にする瞬間に漠然と松本という都市の雰囲気と自然の良さを感じるのだ。ずっと大都市に憧れがあるはずだった。今も憧れがあることには変わらない。にもかかわらず日常の自然に惹かれている。日常に疲れたら簡単に非日常として自らを大自然の中に放りこむことも容易だ。それもきっといつかは日常の一部になっているかもしれない。もしかしたら私は自分の思う以上に自然が好きなのかもしれない。

そう気づかせてきたこの松本の、施設や人の在る姿だって私は学んできた。それらも好きだがささやかな日常の、容易に切り取れるような小さな景色が私にとっては一番魅力的だった。





工学部1年（神奈川県横浜市出身）

私が約3か月間松本に住んで感じた、松本の魅力の一つ目は、自然が身近に感じられるところである。はじめて松本に来た時に周りを囲んでいる高い山の迫力にとっても驚き、思わず写真を撮った。私の地元はどちらかというと海のイメージがあり松本とは対照的で松本市の景観はとても新鮮なものに思えた。

松本市の魅力の二つ目は、音楽にゆかりがあるところである。私はオーケストラに所属している。そのためプロが演奏会を行うような本格的なホールであるキッセイ文化ホールが近くにあること、世界中から音楽家の集うセイジ・オザワ松本フェスティバルが毎年開催されていることは私にとって非常に魅力的である。今年は信大交響楽団のツテで楽屋口アルバイトとしてこの催しに参加することができるのでとても楽しみだ。



工学部1年（茨城県水戸市出身）

私が松本市で魅力を感じる理由の一つは、便利さと自然の豊かさが見事に共存している点です。駅の近くには比較的大きなイオンモールがあり、スーパーや飲食店、日用品を扱う店など、生活に必要なものがほとんど揃っていて非常に便利です。

一方で、少し町を歩くだけで、美しく澄んだ女鳥羽川や湧き水、用水路の水の流れる音に心が癒されます。初夏の夜には、住宅街を歩いているだけでホタルの姿に出会うこともあり、自然の美しさに感動します。

さらに、個人経営の店が多く、店の人との会話やちょっとしたおまけなど、チェーン店にはない温かみを感じることができます。私は、「おひさまベーカリー」ではラスクを、「cafe petit soleil」ではシナモンロールをもらいました。

このように、便利な暮らしと豊かな自然が調和している松本の生活は、心が落ち着き、居心地の良さを感じさせてくれます。

経法学部1年（愛知県名古屋市出身）

松本市の魅力はずばり「自立性」です。私が感じる自立性は3つあります。1つ目は市街地の自立性です。イオンモールや駅周辺へ行くと、生活必需品はすぐに揃えられ、電車や車をわざわざ使わなくても自転車や徒歩でリフレッシュを兼ねてその場所へ行くことができるので一石二鳥です。

2つ目は市全体の自立性です。フィールドワークの一環でいわゆる田舎とされる奈川地域に行ったことで感じたのですが、奈川の人々にとって、都市と田舎は隔絶された別々のものというわけではありません。気軽に山を下りたり逆に信州大学に通う大学生でも気軽に奈川に行って広大な自然に触れたりしています。これらは松本市ならではの思いでした。

3つ目は人々の自立性です。松本市の人々は自分の開きたいお店を開いたり、興味のあることをほかの人を巻き込んでプロジェクトとして実行し、盛り上げたりしている印象があります。栞日というお店を経営している方によると、松本市はやりたいことを実現するハードルが低く、市外から来ても当たり前のように受け入れてくれるといいます。私は飲食店というと思いつくのはチェーン店でしたが、松本市には中町・縄手通りを始めとして松本市には個性的なお店が“そこそこ”あります。都市ではその数に負けてしまいかもしれませんが、その丁度よい規模感が気に入るお店の発見やその唯一無二感が楽しさに繋がっています。

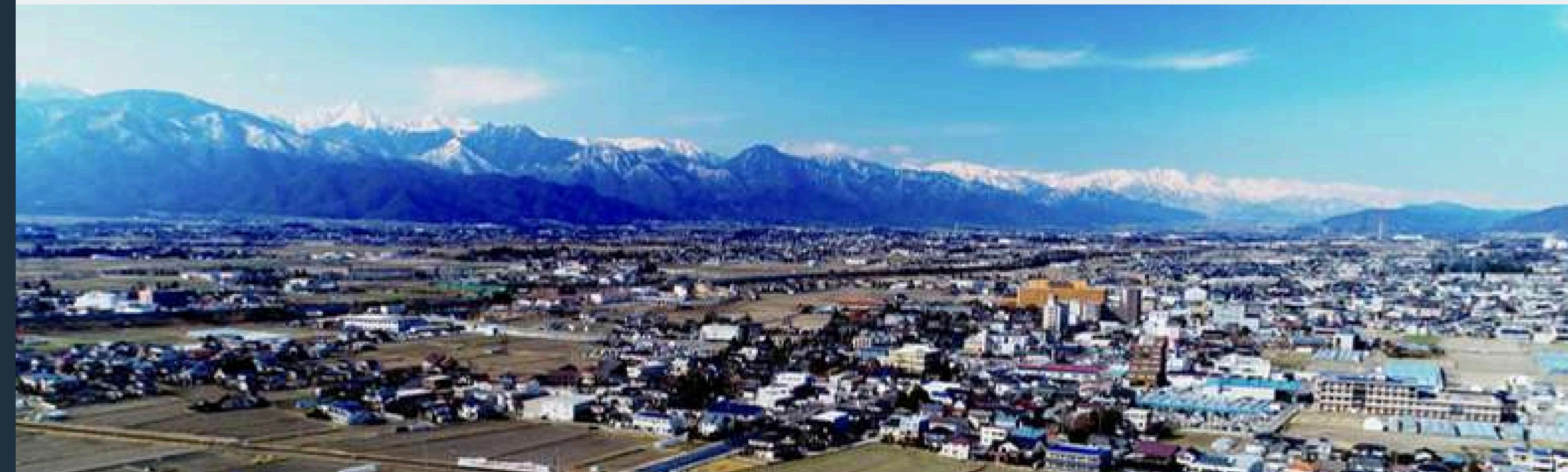
今回挙げたもの以外にもまだまだたくさんのおすすめポイントがあるのですが、私はこれからも松本市の魅力を発見していきたいと思っています。



繊維学部1年（栃木県高根沢町出身）

松本市の魅力は端的に言うと“住みやすい”というところだ。“住みやすい”と感じたのは授業のフィールドワークで散策した時、昔ながらの街並みも残りつつ、観光地の近くは道が整備されている。また、自分がこの三か月住んでみて、街を歩いていて思ったのはイオンが人々の生活を支え、個人店のおしゃれなお店や飲み屋が多くあり、地元の人にもほかの町から来た人も自然に馴染めることができるような場所だとも思う。

言葉じゃただだと“住みやすい”の部分はすべて伝わらないと思うので、ぜひ一度松本市を訪れ自分の感覚として体験してほしい。



工学部1年（北海道北見市出身）

自分は松本市の程よく都会で程よく田舎であるところに魅力を感じます。自分にとって程よく都会であるというのは、イオンに行けば大抵のものがそろったり駅前や松本城が観光客などでにぎわったりしているということです。程よく田舎であるというのは、川の周辺が整備されているのもあり、川の流れを見たり音を聞けたりすることができるのと、山がはっきりきれいに見えることで日常生活の中で自然を感じることができるということです。

ほかにも松本城や駅の近くを歩いているとチェーン店というよりは個人経営のこぢんまりとした雰囲気のごはん屋さんやカフェが多くあるということです。また、市の様々なところに古くからある建物がきれいな形で残っていることにより自転車で数分走るだけで歴史を感じることができるのは、ほかの地域で当たり前のようにはできないのでそこも魅力のひとつだと思います。



医学部1年（広島県広島市出身）

みんなでつくる松本市

私が松本市へやってきて3か月が経った。はじめの印象は“住みやすそうな街”だ。駅前にはカラオケや居酒屋などの人と交流できる場があり、鮮やかな山や川などの自然に囲まれた街でありながら、個人店とイオンモールが生活の便利さを守ってくれている。自宅と大学の往復だけでも、川のせせらぎや鳥、カエルの合唱、ホタルなど、さまざまな自然に触れることができ、住みやすさと自然の豊かさが共存した街である。ただこの街に暮らすだけで自然を感じることができ、こころ安らぐ時間があることは、まさに自然の恵みと呼ぶべきものである。

そして何よりも驚いたのは、私の故郷である広島と違って、松本市民だけでなく移住者も含めた、“みんな”がまちづくりに参加しているところだ。広島でも、野球チームである広島東洋カープが市民の募金（通称 樽募金）で作られたように、市民がまちづくりに参加しているが、県外からの移住者がまちづくりに多く参加しているのは、松本ならではの光景だと思う。

私が「みんなでつくる松本市」を感じた瞬間は2つある。1つ目は、イオンモール松本に買い物に出かけたときである。イオンモールは個人店ではないにも関わらず、店員の方とお客さんが親しげに会話していた。2つ目は、女鳥羽川の河川敷で子どもたちがピクニックをしているのを見たときだ。このゼミを通して、市だけでなく、移住者や昔から住む街の方々が協力して女鳥羽川沿いの河川敷の整備を行っていることを知っていたので、より温かい気持ちになった。移住者を含めた“みんな”がまちづくりに参加している地域住民の温かさこそが、松本市の魅力ではないだろうか。





工学部1年（長野県松本市出身）

松本市は、一言で表せば「歩くのが楽しい街」だと感じます。特に松本城・松本駅・あがたの森公園に囲まれた中心市街地は端から端まで徒歩30～40分くらいで、歩くのにちょうどいい広さです。城下町として発展してきたため、歩くことが当たり前の時代の道がベースになっているのも歩きやすさの理由なのでしょう。エリア内には個性豊かな個人店が多く、知らない道に入ってみて知らないお店を発見するのが楽しいです。市街地は湧水地でもあり、夏場でも冷たくておいしい湧き水が飲める場所が道端に何か所もあります。松本は晴れの日がとても多いというのも、歩くのが楽しくなる大きな理由です。

僕はちょっとした用事で行かせるときでも、松本城の二の丸や美術館の中庭、女鳥羽川の河原、居酒屋と居酒屋の間の細い道などをわざわざ通るのが好きです。何でもない移動時間で松本を感じられるのでおすすめです。特に気に入っているのは、秋・冬の時期の松本です。ひんやりと澄んだ空気を吸い、ポケットに手を突っ込んで上着に顔をうずめながら歩いていると、だんだんと体があたたまってきてちょうどいい寒さになり、心地よく歩けます。